手術手技研修(CST)実施計画書

令和　5　年　4　月　14　日

浜松医科大学長　　殿

手術手技研修　実施総括責任者

所　属：　泌尿器科学講座

職　名：　教授

氏　名：【漢字・ﾌﾘｶﾞﾅ】三宅秀明・ミヤケヒデアキ

※研修実施総括責任者は、准教授以上の医師で学会の指導

医等の適切な資格を有すること

【申請者】　手術手技研修　研修実施責任者（実務担当者）

所　属：　泌尿器科学講座

職　名：　助教

氏　名：【漢字・ﾌﾘｶﾞﾅ】渡邉弘充・ワタナベヒロミツ

解剖学講座　研修指導監督者

所　属：　細胞分子解剖学講座

職　名：　教授

氏　名：【漢字・ﾌﾘｶﾞﾅ】瀬藤光利・セトウミツトシ

**※**印はCST事務局が記入

|  |  |
| --- | --- |
| ※CST委員会承認番号  【 R5 － 8 】 | ※生命科学・医学系研究倫理委員会承認番号 |
| １．審査対象　　手術手技研修実施計画（　□ 新規　・　☑ 継続　） | |
| ２．研修手技名  　　泌尿器関連臓器の摘出術 | |
| ３．研修実施候補日（**※**CST事務局による調整後に最終決定、候補日以外の場合あり）  ①令和　5年　11月　5日（日）  ②令和　5年　11月　3日（金祝）　　③令和　5年　12月　17日（日）  ④令和　年　月　日（　）～ 令和　年　月　日（　）  **＜**研修参加者は**参加者名簿（Excelファイル）で提示＞**  （研修日1週間前までに参加者名簿（Excelファイル）をCST事務局に提出） | |
| ４．手術手技研修の目的（教育, 研究あわせて1個以上、複数選択可）  　・教育 ：☑ a. 基本的な医療技術の習得  ☑ b. 基本的な手術手技、標準手術の習得  □ c. 高度な技術を要する手術手技の習得  　・研究 ：□ a. 手術手技に関連する臨床解剖の研究  □ b. 新規の手術手技の研究開発  □ c. 医療機器等の研究開発  　・目的の詳細（100字**以内**で記載すること）  　内視鏡手術の発展と共に開腹手術が減少し、若手泌尿器科医が関連臓器に接する機会が減少している。本研修で詳細な解剖および臓器摘出のための剥離手順を学習し、実臨床にて安全かつ正確に実施できる手技を習得する。 | |
| ５．研修内容の詳細（解剖体の使用部位、対象の術式を含め、200字**以上**で記載すること）  　体位は仰臥位とする。アプローチ方法は下記の３種類。   1. 下腹部正中切開で後腹膜腔に到達し、膀胱および前立腺の摘出を施行する。＋総腸骨分岐部以下の骨盤内リンパ節郭清を施行する。 2. 上下腹部正中切開で腹腔内に到達し、腎臓ならびに尿管摘出を施行する。副腎についても合併or個別摘出を行う。＋大血管周囲リンパ節郭清を施行する。 3. 陰嚢峰線切開にて陰嚢内容物摘出を施行する。   使用部位は、後腹膜臓器であり、腹腔内臓器は基本的に摘出ならびに切除しないが、腹膜切開や、隣接臓器としての剥離展開は行う。 | |
| ６．研修の有用性（100字**以上**で記載すること）  　泌尿器科で扱う臓器は副腎、腎臓、膀胱、前立腺、男性生殖器等広範囲に及ぶ。学部生における解剖学実習では全体の一部として上記臓器を学んだが、実臨床においては対象とした臓器のみを摘出または再建する必要がある。現在、ロボット支援下手術を含めた内視鏡治療が発展し、特に若手の泌尿器科医にとって、開腹手術を経験するにはその症例数の少なさから、手を出せないのが現実問題である。ご遺体を用いたカダバー研修では、より実臨床に即した解剖を勉強することが可能と考え、詳細な解剖および臓器摘出のための剥離手順を身につけ、実臨床においてより安全かつ正確に実施できる手技の習得が期待できる。 | |
| ７．研修で問題が生じた場合の責任の所在及び補償の有無（責任の所在には、実施総括責任者ならびに申請者を記載すること）  ・責任の所在：（学内）所属：泌尿科学講座　職名：教授　氏名：三宅　秀明  （学内）所属：泌尿科学講座　職名：助教　氏名：渡邉　弘充  ・補償の有無：　□ 有　・☑ 無  ・有の場合の補償の内容（対処方法等）：（　　　　　　　　　　　　） | |
| ８．研修実施における倫理上の要点（箇条書きで記載すること）  　・学生実習と異なり、医師資格を持った医師、研修医が行う点  　・学生実習とは異なった日時、プログラムで行う点  　・項目4のとおり臨床医学の教育、医療安全・医療技術の向上を目的としている。  　・項目10のとおり解剖体登録者の承諾を得ている。  　・解剖体登録者の意思を十分尊重し、解剖体に対して常に敬意を払う。  　・個人情報等を適切に管理する。  　・透明性担保のため、日本外科学会CST推進委員会に報告する。 | |
| ９．使用する解剖体の条件と研修期間等（使用する部位を含めて記載すること）  ・予定献体数　：Thiel　　1　体・ホルマリン　　　体  ※（未使用部位の組み合わせ使用や研修規模の変更など、仔細により若干の変動あり）  ・予定使用部位：□ 頭部・□ 頸部・□ 胸部・☑ 腹部・□ 上肢・□ 下肢・□ 体幹  　　　　　（特定部位がある場合は必ず記入：　　　　　　　　　　）  ・性別　　：☑ 男性　・　□ 女性　・　□ どちらでもよい  ・研修期間：　　1　日間　／　１日の研修予定時間：　　7　時間  ・学会・研究会等の共催の研修で：□ある　・　☑ない  （ある場合は学会・研究会名を記載すること：　　　　　） | |
| １０．使用する解剖体の要件  生前に、医師による手術手技研修等の臨床医学の教育、研究に使用されることについて、原則として意思表示し、解剖体登録者の生前同意を家族に告知し、承諾を得られている。あるいは家族がいない解剖体である。  ・解剖学講座研修指導監督者の確認： ☑ | |
| １１．使用する医療機器名（機器の管理、搬入・搬出方法も含めて記載すること）  　　泌尿器科で臓器移植の際に用いる、外科機器のセットを医局に常備している。  　上記セットを再編し、解剖研修用に使用する。泌尿器科学講座実験室（6階）から  　解剖研修室へ搬入を行う。 | |
| １２．研修運営費（医療機器の費用を含む）の金額及び出所  （収入と支出が0円の予定の場合はその理由を記載すること）  　　泌尿器科学講座　医局費　上記使用機器の滅菌費用5万円 | |
| １３. 利益相反の有無（有の者がいる場合は、その内容を具体的に記載すること）  　　□ 有　・　☑ 無 | |